

## 台湾・高雄港遊覧

個人会員 藤木洋一

私はかつて台湾の高雄港の北側にある航路幅約 100m の第一港口から出港する「クルーズフェリー飛龍 21」を旗津灯台から撮影された絵葉書を有村産業から頂き、その美しさに感銘を受けた。それから何時か第一港口から出港するクルーズ船を旗津燈台から撮影したいと思っていた。現役時代に都合三度、高雄港を往訪する機会があったが撮影に時間は取れなかった。

現役を退いてからは機会を窺っていた。コロナ禍後のネットの情報によれば、高雄港は、昨年（2023 年）6 月 3 日にクルーズターミナルがオープンしたことや戦前は砂糖、戦後はバナナ埠頭として日台航路で活況を呈した第二埠頭のウォーター・フロント開発計画が進行しているとのことであった。

年初に今年の高雄のクルーズ船の寄港予定をネットで確認したら 2 月 28 日「ノルウェー ジャン・ジュエル」と「リビエラ」の 2 隻が同日に寄港することを見つけた。幸い現役時代に貯めた中華航空のマイルの期限も迫っていたこともあり、この 2 隻の撮影を目的に 2 月 27 日の福岡発台北行の中華航空を予約し、高雄の宿は港頭地区の第二埠頭にある再開発で再生された高雄港第二倉庫の中の KW2HOSTEL をネットで予約した。台北から高雄までは初めて台湾高鐵（新幹線）に乗車した。12 時半に台北桃園国際空港に到着し、MRT で高雄桃園に移動して高鐵に乗車。16 時 25 分には高雄市内の左営駅に到着した。MRT に乗ってトラベルコミュニティ「ブーツナル」が世界で 2 番目に美しい駅と評した美麗島駅で乗り換え港頭地区の哈瑪星（ハマセン）に到着したのは 17 時を少し回っていた。



MRT 美麗島站



倉庫を改造したホテル KW2 HOTEL(2階)

駅から徒歩 10 分ほどで倉庫を改造した複合施設 KW2 に到着。この施設は、日本統治時代の 1914 年（大正 3 年）に砂糖の輸出用に建造されたもので、大戦中の空襲にも生き延び 1962 年に改修されバナナの輸出倉庫として使用していたものを 2003 年に台湾の歴史的建造物に指定され 2017 年から倉庫はホテル、ショッピングセンター、レストランなどが入る

複合施設に再生され 2023 年に完成したとのこと。雑然としていた埠頭周辺は、港と夕陽を一望できる公園として高雄市民の憩い場所となった。岸壁からは、対岸旗津に渡るフェリーと港内遊覧船の発着場も設けられていて港内観光にも最高のロケーションである。旗津半島に渡るフェリーは KW2 のオープン時間に合わせて 10 時から 22 時まで年中無休で運航しているが、港内遊覧船の運航は土日の昼から夜間までの運航になっていた。

KW2HOSTEL は KW2 の 2 階にあってチェックイン 16 時、チェックアウト 11 時で部屋数は全部で 12 室。その内、港に面した部屋が 7 室で談話室兼食堂、トイレ、シャワー、洗面所は、室外にあった。部屋は、和室で板の間にダブルのマットが港に面した広い窓に沿って敷かれており、寝ながら港内を行き来する船が見え、船好きにはたまらない環境である。但し、アメニティーなどの備えは無かった。宿泊料は、現在のレート@¥5.49/台湾ドルで 1 泊¥6,780 (1,235 台湾ドル) であった。チェックイン後は、高雄港の夜景を眺めながら 1 階の地ビール工房で台湾のドラフトビールを味わった。翌 28 日は、「ノルウェー・ジュエル」が 8 時に「リビエラ」が 9 時に入港予定なので 7 時くらいから KW2 前面の岸壁をシップウォッチングしながら散策した。



KW2 HOSTEL の部屋 正面は旗津半島

右側が第一港口、遊覧船と澎湖島行フェリー

高雄港は北側の第一港口と南側の第二港口に分かれており、旗津半島の中間にある旗津漁業区より第一港口側が一般岸壁で貨物船やクルーズ船が使用する第一港、第二港口側が第二港でコンテナ取扱量世界第 5 位を誇るコンテナ港。我国の最大のコンテナ船社 ONE が運航する 24,000TEU クラスの欧州航路も寄港する。クルーズ船は、どちらの港口からも入港が可能で、どちらの港口から入港するのか情報を持っていなかった。仮に第二港口から入港すると KW2 の岸壁からは、ブイに係留する船舶や岸壁に係船している海巡署の巡船の陰になり、しかも接岸する時はリターンプールと呼ばれる直径 400 ㍎の海面上で 180 度回頭し、逆光になる部分が多く良い画像は期待できなかった。

早朝、マリントラフィックで確認したところでは、「リビエラ」は、第一港口に指向していたがマニラを出港した「ノルウェー・ジュエル」は南方からきており、どちらから入港するか解らなかったが、7 時過ぎに再び確認したところ第二港口の沖を過ぎて北上していたので一安心した。8 時に「ノルウェー・ジュエル」が第一港口に姿を現し、入船で高雄港クルーズターミナルに接岸。1 時間後「リビエラ」が姿を現し、回頭して出船で接岸した。撮影後、岸壁から徒歩 10 分ほどのハマセン駅から LRT に乗車して 10 分ほどで

高雄港クルーズターミナル到着したがターミナルには関係者とクルーズ船乗船客しか入れず、再び LRT に乗車して次の高雄展覽館で降車してヨットハーバーから 2 隻を撮影して LRT で宿に帰って小休止した。LRT の乗車は、1 回 30 元 (164 円)。台北で IC カードを購入すれば、台北の MRT、高雄の LRT、MRT、渡船やコンビニでも使え、チャージは駅やコンビニで出来るので 1 枚あれば便利。部屋で寛いでいると内海造船で建造され昨年 9 月に澎湖島航路に就航した台湾航業の「澎湖」 Penghu (9,932 総ト、1915 重量ト、旅客定員 600 人、乗用車 80 台、バス 4 台、コンテナ 10 個搭載) が出港して行った。「澎湖」は KW2 の隣の岸壁に接岸しており、10 時の出港予定のはずであったが、何故か 9 時 30 分に岸壁を解纜した。幸い部屋から船影が見えたので撮影出来た。



第一港口から入港する「ノルウェー جان・ジュエル」と「リビエラ」



高雄港クルーズターミナルの「ノルウェー ジュエル」と「リビエラ」

午後からは、高雄市街は逆光になるため旗津輪渡（フェリー）で旗津半島側に渡ってシップウォッチングを行った。フェリーは、高雄側の鼓山輪渡站と旗津半島側の旗津輪渡站を6隻が6時から2時までピストン輸送している。通勤時間帯の6時20分から9時50分までは約5分置き、それ以降23時55分までは10分置き、最終の2時までは30分置きで運航している。航海時間は10分、運賃は大人25元（137円）だがICカードを使えば20元になる。フェリーは平日にも関わらず船客は観光客で溢れ、旗津半島の人気の高さが解った。鼓山輪渡站を出港後、左舷側に見える派手なドーパミン色の建物「カラフルストリートハウス」の前の岸壁に身に覚えのある遊覧船が停泊していた。客室側面のひよこの絵の横に「ながやす2」と書かれていたが、船首に「長安貳號」と正式な船名が書かれていた。両舷にあった外輪は無かったが元近鉄志摩観光汽船の「パイオニア」であることは容易に解った。1969年建造だから船齢55年。現役で観光船として運航しているとのことであった。



高雄を出港する「澎湖」ホテルの部屋からの撮影



「長安貳號」旧「パイオニア」

旗津輪渡站に上陸すると波止場の前に名物の海鮮料理が並んでいる。人混みの中を第一港口にある旗後灯台に向かう1883年に英国が建設したこの灯台も観光名所の1つで20分ほど歩くと灯台に着く。燈台の周りには資料館や喫茶店があり公園の役割も果たしている。ここにも大勢の観光客やカップルが多くデートスポットの一面をなしている。その中に数人「台湾シップウォッチャー」と書かれた腕章をした人達を見付け、同じ目的で燈台に来ているのが解ったので撮影の場所取りをしている彼らに日本からクルーズ船を撮影に来ていることを告げると場所を空けてくれた。彼らと船談義をしながら第一港口から出港する船舶の撮影をしながら、16時出港の「ノルウェージャン・ジュエル」を待った。



旗後灯台から見た 旗津輪渡と Norwegian Jewel と Riviera

「ノルウェー جان・ジュエル」は、16時高雄港クルーズターミナルを解纜、微速で第一港港内のリターンプールに向かい16時20分、船首を第一港口に向けた。16時35分、旗後灯台下、幅100mの第一港口を通過した。長さ294.13m、幅32.20mの巨体が通過する光景はまさに大迫力であった。出港時間を知っていたのか観光客の多くも残って灯台から手を振って見送り、乗船客もそれに応えている。



第一港口から基隆に向けて出港する「ノルウェー ジュエル」



旗後灯台から「ノルウェー ジュエル」を見送る



昨年140周年を迎えた「旗後灯台」

高雄のこの日の日没時間は18時、「リビエラ」の出港時間と同じ時刻であった。18時24分「リビエラ」は港口を10mで通過して行った。夜景の撮影は、日没後1時間以内がベストと言われるが時速に換算して約18kmで接近してくる「リビエラ」を撮影するには条件が

悪すぎたが、画像を確認すると f4.5、1/40sec ISO6400 で満足の行く画像になっており、デジカメの画像処理の凄さを再認識した。



### 第一港口から花蓮に向けて出港する「リビエラ」

翌 29 日は、往路と同じ台湾高鉄・中華航空で帰国した。帰宅して画像整理をする傍ら高雄公務分公司の Facebook で「ノルウェージャン・ジュエル」と「リビエラ」の入港シーン動画を見つけた。2 月 28 日は高雄港クルーズターミナルのオープン後、初のクルーズ船 2 隻同時入港という記念すべき日であることを知った。

関門海峡を中心に船舶の撮影をしていると狭水道を航行する船舶の撮影に興味を駆られる。これからも機会があれば、世界の狭水道で操船技術を駆使して航行する船舶の撮影に力を注ぎたいと思っている。